

## 公開シンポジウム「トランスジェンダーと医療」を開催

### 【概要】

北海道大学大学院文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センターの主催により、公開シンポジウム「トランスジェンダーと医療」を、一般市民・学生・研究者を対象に開催します。

### 【趣旨】

従来、性同一性「障害」と捉えられてきたトランスジェンダーは、多様な性のあり方の一つとして捉えられるようになり、また 2023 年 10 月には性同一性障害特例法に違憲判断が下って、性別登録変更のための「不妊化要件」は無効とされました。また今年 7 月に広島高裁は手術なしでの性別変更を事実上認めました。しかしトランスの人々が差別される現状は変わらず、トランスの人々をめぐる様々な問題が解決されたわけではありません。今回のシンポジウムでは「医療」、特に不妊化要件と生殖医療に着目することで、「トランスジェンダーの身体」について考えてみたいと思います。

- 【日 程】 2024 年 10 月 12 日（土）13：30～16：30（開場 13：00～）  
【場 所】 北海道大学文系共同講義棟 2 階 8 番教室（札幌市北区北 10 条西 7 丁目）  
【主 催】 北海道大学大学院文学研究院 応用倫理・応用哲学研究教育センター  
【対 象】 一般市民・学生・研究者  
【募集人数】 会場 270 名まで収容可能、オンライン 300 名  
【参加費】 無料  
【申込方法】 オンライン参加の場合のみ、10 月 11 日（金）の 13：00 までに下記 URL または QR コードからお申込みください。  
<https://forms.gle/89zQQZroRPnxdctf8>



※直接ご来場いただく場合、事前申込は不要

- 【言 語】 日本語  
【注意事項】 ・ 質問は口頭ではなく、当日配布する質問票、もしくは当日お示しする 구글 フォームを通じてお受けし、主催者がピックアップしてご紹介します。  
・ 会場に専用駐車場はございません。来場には公共交通機関をご利用ください。

**【プログラム】** ※時間は前後する場合があります。

■開会・趣旨説明

13：30～13：40

■講演

13：40～14：20 高井ゆと里（群馬大学情報学部教員）  
「トランスジェンダーの身体と医療・制度」

14：20～15：00 小門 穂（大阪大学人文学研究科教員）  
「性別の変更と生殖医療」

■休憩

15：00～15：15

■登壇者の意見交換

15：15～15：45

■質疑応答

15：45～16：20

■閉会

16：20～16：30

■コメンテーター

満島てる子（7丁目のパウダールーム店長、さっぽろレインボープライド実行委員）

■司会

藏田伸雄（北海道大学大学院文学研究院教授、同大学大学院文学研究院応用倫理・  
応用哲学研究教育センター長）

斉藤巧弥（札幌国際大学観光学部教員、北海道大学大学院文学研究院応用倫理・  
応用哲学研究教育センター共同研究員）

**お問い合わせ先**

北海道大学大学院文学研究院 応用倫理・応用哲学研究教育センター事務局

T E L 011-706-4088（木曜日を除く平日 10：15～17：00）

メール [caep@let.hokudai.ac.jp](mailto:caep@let.hokudai.ac.jp)

U R L <https://caep-hu.sakura.ne.jp/>

**配信元**

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール [jp-press@general.hokudai.ac.jp](mailto:jp-press@general.hokudai.ac.jp)



従来、性同一性「障害」と捉えられてきたトランスジェンダーは、多様な性のあり方の一つとして捉えられるようになり、また2023年10月には性同一性障害特例法に違憲判断が下って、性別登録変更のための「不妊化要件」は無効とされました。また今年7月に広島高裁は手術なしでの性別変更を事実上認めました。しかしトランスの人々が差別される現状はかわらず、トランスの人々をめぐる様々な問題が解決されたわけではありません。今回のシンポジウムでは「医療」、特に不妊化要件と生殖医療に着目することで、「トランスジェンダーの身体」について考えてみたいと思います。

講演

トランスジェンダーの身体と医療・制度

高井ゆと里 群馬大学情報学部教員

性別の変更と生殖医療

小門 穂 大阪大学人文学研究科教員

コメンテーター

満島てる子

(7丁目のパウダールーム店長、さっぽろレインボープライド実行委員)

司会

藏田 伸雄

(北海道大学文学研究院教授、応用倫理・応用哲学研究教育センター長)

斉藤 巧弥

(札幌国際大学観光学部教員、応用倫理・応用哲学研究教育センター共同研究員)

10/12(土)

13:30~16:30(開場13:00)

参加無料

北海道大学

文系共同講義棟 8番教室  
札幌市北区北10条西7丁目

対面とオンライン(ZOOMミーティング)にて開催します。  
オンライン参加のみ事前申込が必要です。  
リンクまたはQRコードからお申込みください。

オンライン定員:300名

申込締切:10月11日(金)(13時)迄



申込フォーム

<https://forms.gle/89zQQZroRPnxdctf8>



北海道大学  
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部  
Office of Diversity, and Inclusion

本シンポジウムは北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部「ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた部局等による取組支援プログラム」の支援を受けています。



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ

Email: [caep@let.hokudai.ac.jp](mailto:caep@let.hokudai.ac.jp)  
URL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp/>  
Twitter: @caep\_hu



## トランスジェンダーの身体と医療・制度

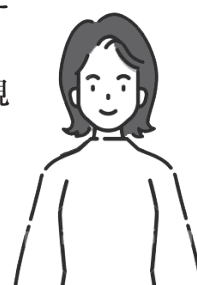
高井ゆと里 (たかい ゆとり)

専門はハイデガー哲学、生命倫理学（主に研究倫理）、トランスジェンダー研究。トランスジェンダーに関する出版物として『トランスジェンダー入門』（集英社：共著）、『トランスジェンダー Q&A』（青弓社：共著）、『トランスジェンダーと性別変更』（岩波書店：編著）。翻訳書としてショーン・フェイ『トランスジェンダー問題』（明石書店）、ノア・グリニ&テレサ・ソーン『じぶんであるっていいかんじ』（エトセトラブックス）がある。

2023年10月、性同一性障害特例法に違憲判断が下った。トランスジェンダーの人々の法的登録の訂正を定めた同法が要件とする「不妊化要件」は、それにより無効となった。トランスの人々の身体は、しばしば社会からの望まぬ注目を集める。その注目は、個人や集団に対する侮辱や排除のレトリックを駆動すると共に、医療や法・制度を通じた「管理」の動機付けにも使われてきた。あるべきかたちや機能について不合理な介入を受け続けてきたトランスの身体は、いったいいつになったら解放されるのだろうか。

歴史上なんども反復されてきたこの問いは、現在も切実な問いであり続けている。

## 医療 トランスジェンダーと



### 性別の変更と生殖医療

小門 穂 (こかどみのり)

専門は科学技術社会論、生命倫理学。フランスと日本を中心に、生殖をめぐる倫理的・法的・社会的問題についての研究を行っている。著書に『フランスの生命倫理法 生殖医療の用いられ方』（ナカニシヤ出版、2015年。2016年第33回渋沢・クローデル賞特別賞）。論文に、小門穂「生殖補助医療により生まれる子どもの権利」『法律時報』96（4）（2024年）など。

詳しくは、

<https://researchmap.jp/kokadominori64687>

生殖や家族に関わる制度は、その社会でどんな人が親として子育てをする人だと想定されているのかを浮かび上がらせる。性別を変更する人が親になることについては、生殖機能を温存して性別を変更できるのか、性別適合手術を受ける前に精子や卵子を保存し性別変更した後に使うことができるのか、第三者からの提供を含め生殖医療を使うことができるのか、などから性別変更と家族形成について検討することができるだろう。

本報告では、主に日本とフランスの制度から、性別変更と子どもをもつことについて現状の制度や課題について考えたい。



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ／応用倫理・応用哲学研究教育センター事務局

Email: [caep@let.hokudai.ac.jp](mailto:caep@let.hokudai.ac.jp)

URL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp/> Twitter: @caep\_hu